

展望台

横浜港シンボルタワー

を「存じだろ」か。本牧ふ頭の荷捌き風景を眺めるなら、この展望室がベスト。赤レンガ倉庫あたりのおしゃれスポットを訪れて、「ヨコハマは港町だね」などとのたまう者がいたとしたり片腹痛い。本牧を知らずして、港ヨコハマを語るべからず。

こんな話がある物流企業関係者から聞いた。自他ともに認める港湾マンアである氏は、考えに耽りたい時、仕事の資料やPCを携えタワーに一人足を運ぶ。そして休憩時間には、目前に広がるガ

ントリークレーンの荷役風景や、コンテナ船の入出港の様子を眺めて悦に入るという。

仕事柄恥すべきことだが、記者は同タワーを知らなかつた。しかも30年近く横浜に住んでいながら、このままでは横浜を語る資格がない。というわけで先週日曜、

商船三井興産運営のタワーに行ってきた。

結論から言うと最高だった。潮風に吹かれながら、雄大なガントリークレーンや段積みされたコンテナをただ眺める。もちろん、横浜開港150周年記念で発売された清流水「はまっ子どうし」

を片手に。巨大構築物が醸し出す圧倒的な迫力か、世界とのつながりを想像するロマンか。マニアの方々を惹きつける港湾風景の魅力が分かった気がした。

そんな港湾、コンテナマニアから熱い支持を受けるのが、鉄道模型などを企画・販売するトミー

テックの「ザ・トレイラー・コレクション」だ。

船社の40フィートコンテナとトレイラートラックを150分の1のNゲージサイズで再現した同商品は、発売直後にメーカー在庫が底をつくほどの人気を博している。同商品の特集記事を10

日付の本紙に掲載する。ご一読いただければ幸いです。なお港湾マニア代表として、前出の物流企業関係者のインタビュも併載する。ディーブなマニア談義となっている。

また同商品は、横浜開港150周年記念イベント「Y150」で、横浜港埠頭公社のブースに展示されたという。同公

社は子供たちに物流を身近に感じてもらうこと

で、横浜港の将来を担う人材が育つことを目指している。横浜港シンボルタワーとトレイラーコレクション。いずれも物流になじみがない人々を、物流と結び付けるきっかけになり得る。(松下)

ヨコハマ知るなら、まず本牧

港埠頭公社のブースに展示されたという。同公